



1. 院内で転倒転落の結果、治療を必要とする事故発生件数

院内で転倒転落の結果、治療を必要とする事故発生件数集計方法と定義

臨床評価指標項目	2019(平成 31/令和元)年度	2020(令和 2)年度	2021(令和 3)年度
入院患者の転倒・転落件数(ヒヤリハット報告含む) (分子)	640	584	573
入院延べ患者数 (分母)	322,651	281,407	291,224
入院患者の転倒・転落発生率 (単位‰(分子/分母)*1,000)	1.9‰	2.0‰	1.9‰
入院患者の転倒・転落後、骨折・頭蓋内出血が発生した件数	7	13	8
入院患者の転倒・転落後、擦過傷や打撲が発生した件数	40	40	74

解説文

2021 年度、入院中の転倒・転落発生件数は 573 件発生。うち骨折・頭蓋内出血の発生件数は 8 件発生しました。発生時には、多職種で再発防止に向け検討会を実施しています。年代別では、70 代・80 代の高齢者に多くみられますが、2021 年度は 40 代～60 代での転倒が前年度に比べ増加を認めました。発生場所では、病室内が最も多く、ベッドからの立ち上がり時や物を取ろうとした時などの場面で発生しています。入院生活での筋力の低下、また発熱などの身体的症状から、転倒のリスクが高いため、早期のリハビリの介入や多職種でのカンファレンスを行い、安全に入院生活がおくれるよう、介入していきます。



院内で発生した VTE (PE/DVT) 件数

臨床評価指標項目	2019(平成 31/令和元)年度	2020(令和 2)年度	2021(令和 3)年度
入院患者に発生した VTE (PE/DVT) 件数	65	110	63
入院患者の VTE 発生率 単位%	0.02%	0.03%	0.02%

解説文

肺血栓塞栓症(PE)と深部静脈塞栓症(DVT)は静脈血栓塞栓症(VTE : Venous Thromboembolism)と総称されます。

入院患者では VTE が生じやすいといわれており、時に致命的な合併症となります。

医療安全管理室では、診療記録管理室の協力のもと 2017 年より院内発症の VTE の発生件数を集計しています。2021 年度は肺血栓塞栓症(PE) 21 件、深部静脈塞栓症(DVT)42 件、合計 63 件の発症でした。昨年と比較して 47 件の減少でしたが、入院患者における比率は 0.02%と昨年と比較して 0.01%の減少となっております。